



新しい年2004年、いかがお過ごしでしょうか。HPで見かけた今年の運勢です。

今年は甲申五黄土星（きのえさるごおうどせい）の年です。この星は混乱、天変地異などよくない意味もありますが反面、信念、闘志、強力なエネルギー、実行力など力強い星でもあります。過去の歴史をみても、大正三年第一次世界大戦、大正十二年関東大震災、昭和十六年第二次世界大戦などが起っています。凶悪犯罪や、戦争などが起りやすく、大地震が起こる可能性もあり、私達の生活に緊張感を与える年と予想されます。本年は、伸びる芽は急速に伸び大躍進しますが、崩れるものは、坂をころげ落ちるようにすい退していきます。チャンスをつかみ、一気に前進することが大事ですが、不安やかげりが見えたら、即後退することも必要です。

また、本年はいつにも増して、神仏を敬うことが大切です。ご先祖の供養をし、両親を大切に、目上の人を常に敬う心掛けで、家庭生活が平和で円満な年になるでしょう。自分から明るく振舞えば自然と人も幸せな気持ちになります。

（開運家庭暦 日本カルチャーセンター編纂 協力日本易学協会）

緊張の1年ではありますが、きっといい年になると信じて1日1日を大切に頑張りましょう。

<第103回 ほほえみの会>
堀越先生を含め6人の参加でした

▽ 小学6年女の子。小2で急性リンパ性白血病となり治療も終わった。これから中学生になるが学校生活や授業、通学など心配。また学校入学前に先生にどの程度病気のことを話していいかわからない。

参加者から体験談がありました。

中学入学時に担任と養護の先生に話をした。新入生の情報は全職員が知る必要がある場合は職員会議で知らされる。また担任も何かトラブルがあると責任問題にもなるので校長や関係する先生には詳しい話をしているようだ。入学後は髪の毛も少ないし、いじめにもあった。その時には先生と本人から病気の話をクラス全員の前で説明した。3年生になってからは助けてくれる仲のいい友達も出来た。体育の授業なども一緒にさせている。まずは先生と話をしてみたらどうかとのことでした。

▽ 1歳7ヶ月肝芽腫。3回目の治療をしたが薬が効かない。カテーテルで直接抗がん剤を入れる治療をすることに。レントゲンで見ながら血管から管を入れていくため山梨大から放射線科の医師が来てやってくれるという。感謝。母親も病気によりやく慣れてきた。入院当初は病棟のお母さん方にも「同情するならほっといてくれ」という気分だったが最近は分かり合えるようになった。こどもの元気な様子を見ると親が落ち込んでられない。

▽ 3歳で治療を始め16歳になった。今後の診察を一般病院でするように外科医師から話があり本人が不安がっているが。病気を克服した子がその後成長する姿を見るのは医師にとっても他の患者さんにとっても励みになる。一方、一般の病院では大人として診てくれるのでいい面もある。いろんな科にかかっているので少しずつ変わったらどうか。

▽ 県内出身のチャイルドライフスペシャリストの方が帰国してこども病院で講演をしてくれることになりました。1月26日(月) 午後5時45分から 3階大会議室です。テーマは「チャイルドスペシャリストの研修報告」で病院職員を対象としているようですが、一般の方も参加していいということです。興味のある方はどうぞ。

次回は 2月 8日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560
E-mailアドレス k_likeda@yahoo.co.jp
ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>